

一 **RSウイルス感染症** : 過去5年間の同時期に比べやや多い 一

RSウイルス感染症はRSウイルスを原因とする呼吸器感染症で、2歳までにほぼ100%の子供が初感染を受けるとされています。また、生涯にわたり感染を繰り返す感染症です。

和歌山県全体の定点当たり患者報告数は、1.26人（前週：1.26人）と横ばいで、過去5年間の同時期に比べやや多い状況です。

保健所別では、田辺保健所管内が3.00人（前週：3.00人）と最も多くなっています。

全国的には患者報告数は減少し、過去5年間の同時期に比べ少ない状況です。（第8週：1420人）

主な感染経路は飛沫感染と接触感染であることから、感染予防対策としては手洗い、うがいが基本です。

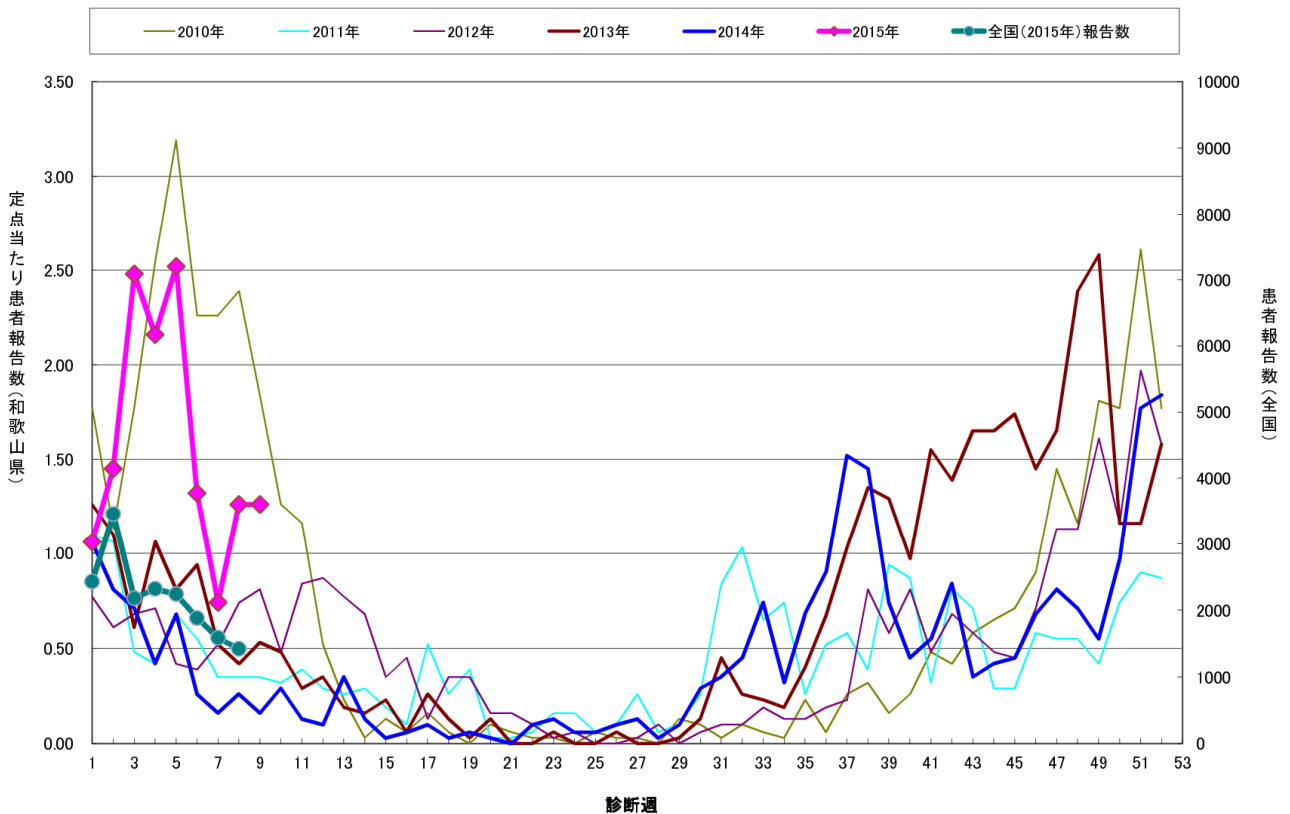
また、せきの症状がある場合はマスクを着用する等、せきエチケットを心がけてください。

なお、RSウイルス感染症に警報・注意報レベル基準値は設定されていません。

RSウイルス感染症の詳しい説明はこちら：(厚生労働省HP)

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_ga.html)

RSウイルス感染症



一 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎** : 過去5年間の同時期に比べやや多い 一

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、A群溶血性レンサ球菌による上気道感染症で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴う細菌性の感染症です。

和歌山県全体の定点当たり患者報告数は、1.23人（前週：1.32人）と少し減少しましたが、過去5年間の同時期に比べやや多い状況です

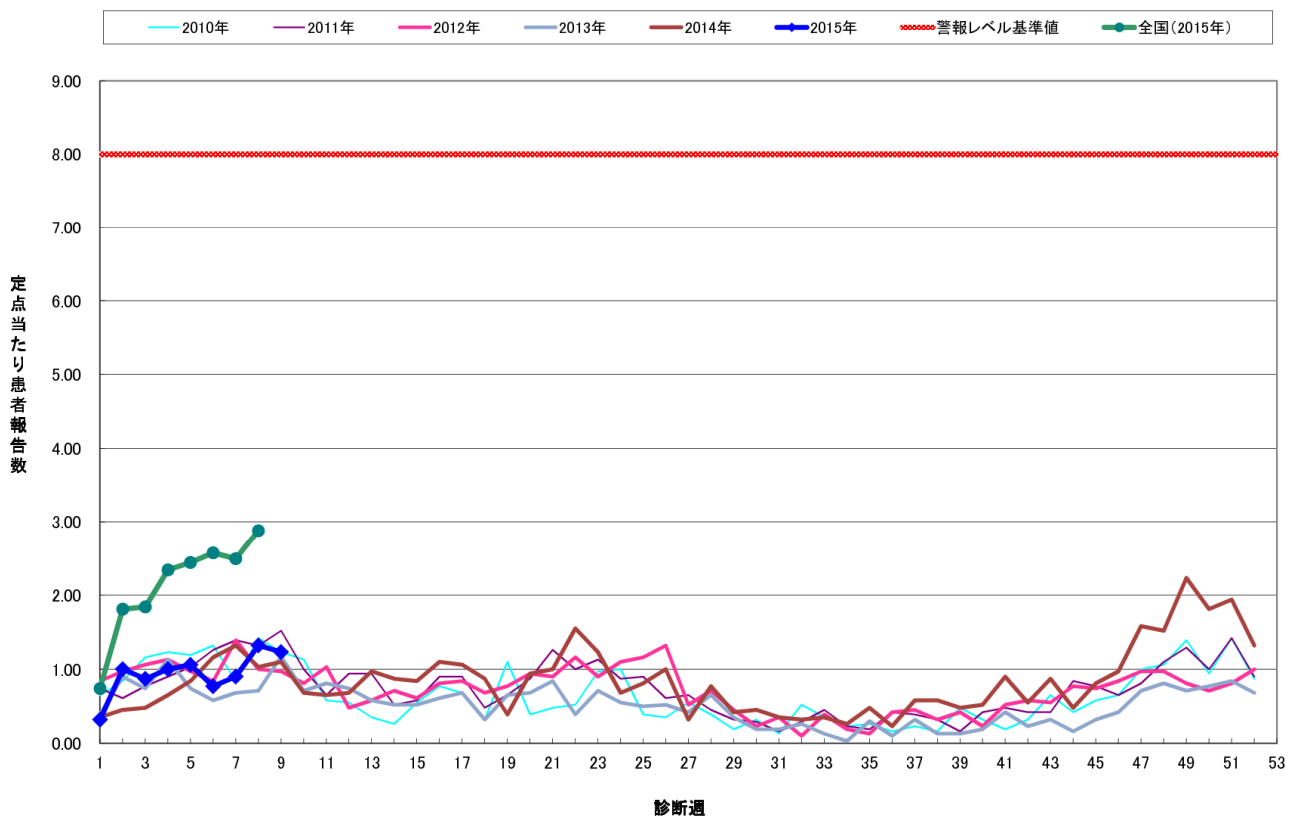
全国的には定点当たりの患者報告数は増加し、過去5年間の同時期に比べかなり多い状況です。（第8週：2.88人）

主な感染経路は飛沫感染と接触感染であることから、手洗い、うがいを徹底し、感染者とのタオルの共有は避ける等、予防に努めましょう。また、せきの症状がある場合はマスクを着用する等、せきエチケットを心がけてください。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に関する説明はこちら：(国立感染症研究所HP)

(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(和歌山県全体)



◆◆ これから注意が必要な感染症 ◆◆

一 感染性胃腸炎 一

感染性胃腸炎は、細菌やウイルス等による感染症で、発熱、嘔吐、下痢等が主な症状です。

和歌山県全体の定点当たり患者報告数は4.10人（前週：4.74人）と減少し、過去5年間の同時期に比べ少ない状況ですが、例年冬場に集団感染等が多く発生するため十分に注意してください。

全国的には定点当たりの患者報告数は増加しましたが、過去5年間の同時期に比べ少ない状況です。（第8週：7.54人）

冬季の流行はウイルス感染によるものが多く、原因となる病原体は流行期前半ではノロウイルスが多いと言われています。ノロウイルスの感染力は強く、患者の吐物・便から手指を介して感染することも多く、その取り扱いに注意が必要です。

感染性胃腸炎の感染予防としては、次のようなポイントがあります。

○手を洗いましょう。

外出先から帰った後や、トイレの後、調理の前には、消毒液や石けんで十分手を洗いましょう。

タオルは共有せず専用のものにしましょう。

○食品の取り扱いに注意しましょう。

加熱する場合は、食品の中心まで火が通る（85℃、1分）ようにしましょう。

まな板、包丁、ふきん、タオル等も熱湯（85℃以上）で1分以上の加熱が有効です。

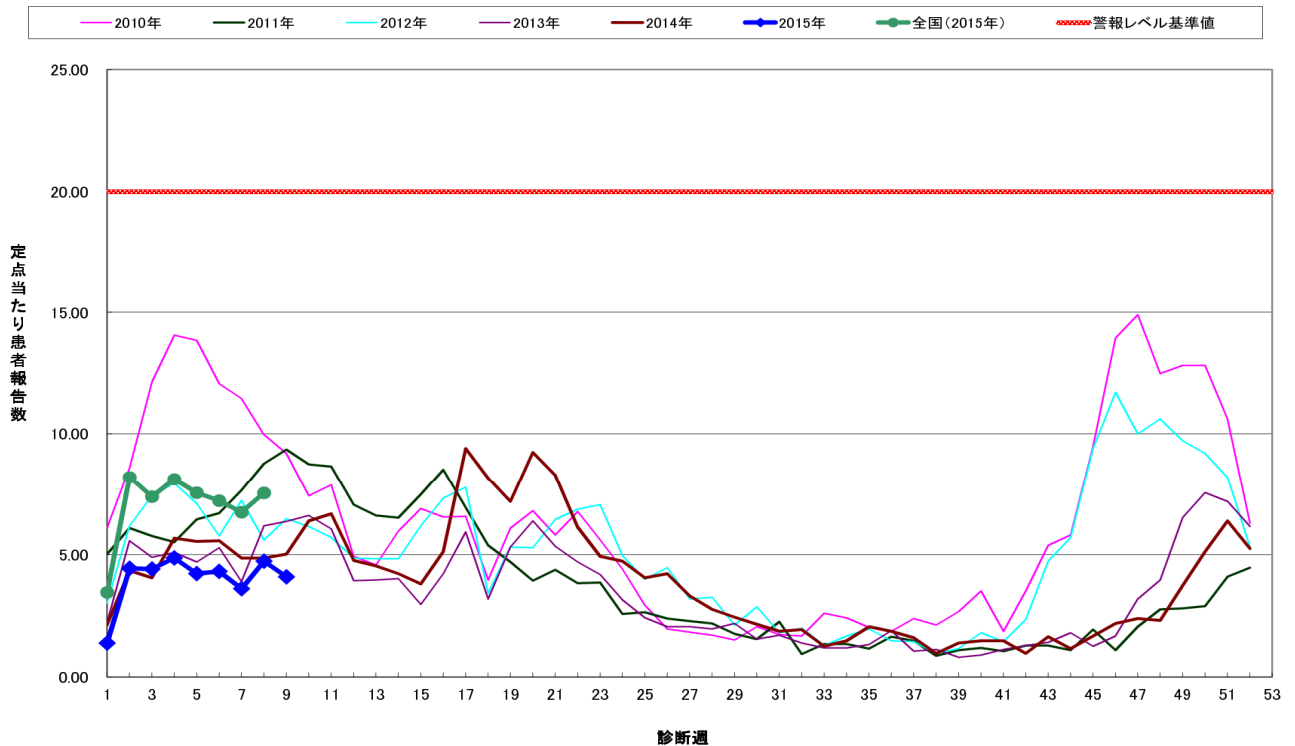
○患者の吐物等の処理に注意しましょう。

マスク、使い捨てビニール手袋等を着用し、ペーパータオル等で拭き取った後、ビニール袋などに入れて外に漏れないようにして捨てましょう。汚染された床は、約200倍程度に薄めた塩素系漂白剤を用いて消毒しましょう。

※塩素剤の取り扱いは、ビニール手袋などして、十分換気しましょう。

※塩素系消毒剤は金属の腐食を起こすので、消毒後十分拭き取りましょう。

感染性胃腸炎(和歌山県全体)



風しんワクチン接種に対する助成制度について

和歌山県では、県内の19歳以上50歳未満の妊娠を希望する女性と妊婦の夫を対象とした風しんワクチン接種費用の助成をおこなっています。

詳しくは、現在お住まいの各市町村の保健福祉関係課へお問い合わせください。

助成期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

○ 定点把握感染症の警報・注意報レベル基準値について

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
百日咳	1	0.1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

基準値はすべて定点当たりの報告数です。注意報の「-」は対象としないことを意味します。

◆◆ 全数把握感染症について ◆◆

<届出状況>

1) 当該週に診断された感染症のみ掲載しています。

- 1類感染症：報告はありませんでした。
- 2類感染症：結核 4名
- 3類感染症：報告はありませんでした。
- 4類感染症：報告はありませんでした。
- 5類感染症：報告はありませんでした。

2) 第1週から当該週までに診断された患者報告数を掲載しています。

疾病名	報告数
結核	28
つつが虫病	2
クロイツフェルト・ヤコブ病	1
ジアルジア症	1
侵襲性肺炎球菌感染症	2
梅毒	1
播種性クリプトコックス症	2

◆◆ 5類定点把握感染症(週報)について ◆◆

<各保健所の警報注意報レベル状況>

警報レベル

手足口病（湯浅保健所管内）

注意報レベル

ありません。

<保健所別の患者報告数（和歌山県）>

(-:患者報告がない、…:保健所管内に定点が存在しない)

		和歌山市	海南	岩出	橋本	湯浅	御坊	田辺	新宮	串本
インフルエンザ	報告	72	1	24	19	13	11	46	11	14
	定当	4.8	0.33	4	3.17	2.6	3.67	6.57	3.67	7
RSウイルス感染症	報告	15	-	10	1	1	-	12	-	-
	定当	1.67	-	2.5	0.25	0.33	-	3	-	-
咽頭結膜熱	報告	1	1	-	-	-	-	4	-	-
	定当	0.11	0.5	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告	11	1	6	5	6	5	3	1	-
	定当	1.22	0.5	1.5	1.25	2	2.5	0.75	0.5	-
感染性胃腸炎	報告	57	13	27	6	14	4	1	2	3
	定当	6.33	6.5	6.75	1.5	4.67	2	0.25	1	3
水痘	報告	-	-	1	-	7	-	2	-	-
	定当	-	-	0.25	-	2.33	-	0.5	-	-
手足口病	報告	1	-	-	1	16	-	-	-	-
	定当	0.11	-	-	0.25	5.33	-	-	-	-
伝染性紅斑	報告	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	報告	4	2	2	1	4	1	1	-	-
	定当	0.44	1	0.5	0.25	1.33	0.5	0.25	-	-
百日咳	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	報告	-	…	…	…	…	…	-	…	…
	定当	-	…	…	…	…	…	-	…	…
流行性角結膜炎	報告	-	…	…	…	…	…	-	…	…
	定当	-	…	…	…	…	…	-	…	…
細菌性髄膜炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
無菌性髄膜炎	報告	-	…	-	1	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	0.5	-	-	-	-	…
マイコプラズマ肺炎	報告	-	…	-	-	-	1	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	1	-	-	…
クラミジア肺炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告	-	…	1	-	-	1	-	-	…
	定当	-	…	1	-	-	1	-	-	…

和歌山県感染症情報（WIDR）2015年第9号

発行日：平成27年3月5日

発行元：和歌山県感染症情報センター

（和歌山県環境衛生研究センター内）

和歌山市砂山南3-3-45

TEL 073-423-9570

E-mail e0318011@pref.wakayama.lg.jp

URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031801/kishukko>

（お問い合わせ先）

和歌山県福祉保健部健康局健康推進課

和歌山市小松原通一丁目1番地

TEL 073-441-2657

E-mail e0412003@pref.wakayama.lg.jp

このWIDRは感染症新法に基づいて実施されている感染症発生动向調査から作成しています。ここに掲載した情報はあくまでも速報であり、今後の調査結果で訂正される可能性がありますのでご注意ください。